
銀河鉄道は来なくとも

LeMac

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀河鉄道は来なくとも

【コード】

N0955M

【作者名】

LeMac

【あらすじ】

「あなた死のうとしているの？」

高層ビルディングの屋上、俺の後ろで、女の声がした。

あと一步、あと一步。
見下ろすビル群から吹き上げてくる風は、俺を煽るように、そう
言っている。

「あと一步」足を前に進めることができれば、俺はこの腐った地上
に真つ逆さま。この世を去ることができる。視線は遠く、摩天楼の
明かりが成す、光の絨毯を見渡す。ロマンティック、ミステリアス、
センチメンタルだのの言葉を、俺は微塵とも思い起こさない。無
感動　ハード・ボイルドとでも訳したら少しは恰好がつかだろう。
『ロング・グッドバイ』のフィリップ・マーロウは云った。

「人はタフでなければ生きてはいけない」

事実、俺はタフではなかった。

ネオンサインを見ながら死んでゆくのも悪くはない。意識がシャ
ットダウンすると同時にネオンは消える。まるで自分の命の灯火を
見るように。

俺はその場に腰掛けると、両足を中空に投げ出してセブンスター
をくわえた。煙草の煙が一瞬、夜と重なるがすぐ風に掻き消される。
「煙草を一本ちようだいしてもいいかしら？」

耳に痛いほど透き通る声　振り返ると女がいた。

短めの黒髪、キャメルのロング・コートに身を包み、俺の隣に腰
掛ける。もちろんここは超高層ビルの屋上。時間は真夜中1時
なぜ？

女に煙草を渡した。金のライターで火を点けてやると、どうもあ
りがとうと彼女は言った。俺は突然現れたこの女を人生最期の話
し相手に選ぶか否かを葛藤していた。

「あなた死のうとしているの？」

取り留めもなく女は俺に訊いてきたが、俺は答えたくなく、閉口
したままじつと前を見据えていた。

「自殺志願者じゃなかったら、ジヨバンニみたいに銀河鉄道待つてるとか？ もしくはチャネリング？ まあ、いずれにしてもまともじゃないみたいね」

女は小さく笑って煙を吐き出した。

俺は考えるのを止め、立ち上がった。幻想でも見ているのだろう。いやな幻想だ。まるで俺が死をためらっているかのような。

俺は街の喧騒を見下ろすと、生の淵に向かってじりじりと足を滑らせる。足が震えるのがわかる。二十センチメートルほど足を滑らせただろうか、幻想の女は突如話しだした。

「私この前、猫の国に行ってきたわ」

猫の国？ 俺の頭に強く響く。

「あなたも行ったらいいわ、猫の国。そこではね、働いてると軽蔑されちゃうの」

女はすっと立ち上がり、俺に言った。

「明日のこの時間に、ここで待っていてくれれば、私が迎えにくるわ。猫の国に連れて行ってあげる」そして俺の横を擦り抜けると、造作なくビルからひよいと飛び降りた。

俺は思わず息を呑んで、遙か遠く地上の道路を見下ろした。しかしそこに女の姿はなく、沈んだ暗闇に車のライトが幾多も浮かび上がっているだけだった。

横に残る煙草の吸い殻だけが紅色の淡いルージユを残して、わずかに煙をくすぶらせている。

それだけが、今は現実。

俺は再び、視線を摩天楼へ戻す。

街のどこかから聴こえてくるルイ・アームストロング。曲の名前は忘れてしまったけど、それは狂おしいほど俺の体に染み入る。

ルージユ？

幻想？

猫の国？

俺は踵を返し、夜空を仰いだ。都会の空が近い。星はわずかだが、その光を懸命に湛えている。

猫の国 行ってみるのも悪くない。

(後書き)

別のサイトに一度出したのですが、自分の手違いで消えてしまったので、
今一度投稿してみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0955m/>

銀河鉄道は来なくとも

2010年10月20日11時33分発行